2016年（平成28年）
第108号
（12月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

ＡＣＲＰ創設４０周年記念シンポジウム　～寺島実郎氏が講演～

10 月 26 日、京都市国際交流会館において**「いかに宗教の名を使った暴力的過激主義に応答するか？」**をテーマに、**「アジア宗教者平和会議(ACRP)創設 40 周年記念シンポジウム」**(世界宗教者平和会議日本委員会主催)が開催され、国内外の宗教者や研究者、市民ら約 220 名が参加しました。本会京都教会からも、多数の会員が参加しました。

ＡＣＲＰ４０年の軌跡がショートフィルムで上映された後、全員による平和の祈りの黙祷、開会挨拶、祝辞があり、日本委員会の庭野日鑛会長は開会挨拶で、**「世界各国で発生しているテロで宗教への不信感があり、一般的には一部の過激主義者の仕業という認識ではあるが、すべては自分自身に内在する心の問題」**と指摘。「仏教では**恨みは恨みによって止まず、ただ慈愛によってのみ止むものなり**と教えて頂いており、これは永遠に真実であると」説かれました。

そして「アジアの多様性をマイナスにするのではなく、心を豊かにするきっかけとしたい」と、今回のシンポジウムが新たな出発点となれるよう期待を述べました。

基調発題では、寺島実郎氏（日本総合研究所会長）が登壇。自身の仕事で世界７０ヶ国をまわってきた経験を踏まえ、「現場を見てきて、その国の人がどんな宗教を信仰しているのか興味があった」と述べ、その上でキリスト教とイスラームの衝突の歴史を解説しながら「**宗教対立を超えていくのは相手の立場を認め共生**

していくことが大切。宗教者が対話を行い多くの人たち、特に加盟団体の若者に熱烈に語って頂きたい」と、今後の活動に期待を寄せました。

そのあとのパネルトークでは、山崎龍明氏（WCRP/RfP 日本委員会平和研究所所長）をコーディネーターに、杉野恭一氏（同国際委員会副事務総長）、ディン・シャムスディーン氏（ACRP/RfP Asia 実務議長）、スファトメット・ユニャシット氏（WCRP/RfP タイ委員）、キム・ヨンジュ氏（ACRP/RfP Asia 共同会長）が登壇しパネル討議が行われました。

パネリストからは、過激派組織による若者への勧誘を防ぐために、宗教に関する正確な情報発信の必要性、また経済格差や政治不信など、暴力過激主義に結びつくあらゆる要因の解決に、各国や各宗教の対話の重要性を述べられました。

その後のフロアディスカッションでは**「平和構築は気が遠くなることかもしれない。微力かもしれないが無力ではない」**とのマハトマ・ガンジーの言葉を紹介し、閉会となりました。

時事刻々

中京区の京都ＹＭＣＡ三条本館の正面入口横に球体を載せたモニュメントがあります。その碑文には「１９１５年、バスケットボールの歴史がこの地で始まる」とあります▼日本にバスケットボールが伝わったのは１９０８年。その７年後には旧制京都一中（現・洛北高校）教諭の佐藤金一氏が日本初のチームを作りました▼総務省の調査によると、４百万人ほどの人が過去一年間にバスケットボールを行ったそうです。数あるプロスポーツの一角をなすものになっています▼しかし、十年前、トップリーグが分裂したため、国際リーグへの出場できなくなりました。昨年、川淵チェアマンにより両リーグを統合することができました。発祥１０１年目の今年、新リーグとして再スタートです▼国内外を見渡すと、分裂や対立をあおるリーダーの登場が目立ちます。しかし、必ず人類は和解し、統合できると信じたいものです。

今月のことば　～「仰いで天に愧(は)じず」～　京都教会長　佐藤益弘

今月は、教会長の佐藤が担当させて頂きます。宜しくお願い致します。

早いもので、平成２８年の師走を迎えました。

今年は国内において大きな地震が起きました。４月には熊本地震、１０月には鳥取県中部地震、さらには１１月に福島沖地震がありました。犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

さて、本会機関誌『佼成』12 月号では、会長先生から、**「仰いで天に愧(は)じず」**というご法話をいただきました。前段の**「やましいことはないか」**というお話の中で、**「人生とは、過ちをおかしながら生きること」**とあります。また、**「自分にやましいことはないか」**と省み、仏・菩薩の心に帰ることが大切であると教えていただきました。私自身ふりかえってみると、日常生活において、沢山やましい心を起しているものだと気がつきます。

以前、自転車に乗っている女子高校生らが歩道を暴走して、歩いていた私に向かって「危ない！邪魔だ、オヤジ！」と言われて怒り心頭に発しました。また、夕飯の買い物をしている時、半額シールが貼られた残り最後の品を隣のおばさんに一瞬の差で取られて悔しい思いをしながら、文句を言いたくなるような心を起したことなど、数えたらきりがありません。

だから、過ちをおかしながら生きていることを素直に認めざるを得ないのであります。人のことを批判しますが、自分はどうなのかと省みることの大切さを忘れないように心掛けたいと思います。

そういう気持ちになれば、何事が起きても、とらわれないで生きられるのだと信じます。

後段は、**「恥じるところに向上がある」**というお話であります。その中で、人間が尊いものを求め、そこに**「敬する心」**が生まれ、さらにその心が発達すると**「恥ずる心」**が起こると教えてくださっています。そういう意味では、神仏を敬い、拝む生活が何より大切であると思います。

本会においては各家に御本尊を勧請し、お参りをさせて頂いております。そのような信仰生活を送らせていただくことにより、敬する心を持ちつつ、懺悔の心で人格を磨くことが叶うものと受けとめさせて頂きました。

「仰いで天に愧じず」とは、よく開祖さま、脇祖さまからご指導いただきました**「仏さまは常にご照覧くださっているのですから、そのことを忘れずに教えにそって精進させていただくように…」**ということとも解せます。会長先生からは、偉大なるものに少しでも近づこうとする人間性豊かな生き方であると教えていただきました。私も仏さまのようになりたい、お師匠さまに一歩でも近づきたいと願いつつ、人さまを思いやる心をもって菩薩行に励んで参りたいと存じます。

本会では、１２月１日からが新しい年であるといわれております。そういうことから、今月は一年の総決算であると同時に、新たな誓願をもってスタートするときでもあります。懺悔の心とともに思いやりの心を大切にし、これからも精進させていただきたいと決意を新たにしました。　合掌

「世の中の道具」になろう　～新宗連・京都　円応教・大阪会館を訪問～

平成 28 年 11 月９日（水）、新宗連京都府協議会では教団訪問が行われました。これは毎年、お互いの教団を理解するとともに、自分の教団の教えを再確認することを目的として実施されています。今回は、各教団から 19 名が参加し、円応教の大阪会館に訪問しました。

大阪会館に到着した一行は、「慈照の間」で礼拝した後、各階の施設を案内してもらいました。その後、講話で「円応教の歩みと教義」を学びました。講師は、教祖・深田千代子師が遺された「御遺文」「御遺品」「修法」「弟子」「子孫」が教団の基盤になっていると述べられました。最後に、教主・深田充啓師が揮毫された「世の中の道具」の額の前で記念撮影をしました。この言葉に円応教の教えが現れています。

教団訪問の後は、昼食と鶴見緑地公園・「咲くやこの花館」を見学しました。メンバー同士の親睦を深めることができた一日でした。

正面ロビー「世の中の道具」額

「慈照の間」で礼拝

会館内を見学

「礼拝所」で講話を学ぶ

七五三式典　～教会に子供たちの声が響き、笑顔あふれた～

11 月６日、教会法座席において七五三式典が行われ、63 名の参加者がありました。保護者の方や支部でお祝いされる方などで法座席は賑やかな式典となりました。

佼成スパークルブラスによる演奏に合わせて、七五三のお子さんが支部別に入場すると、会場は大きな拍手に包まれました。佐藤教会長導師のもと、勧請文が奏上された後、千歳飴が一人ひとりに手渡されました。

その後、佐藤教会長はお言葉の中で、「江戸時代は平均年齢が５０歳位で子供が育ちにくい環境だったため、７歳まで育ったことのお祝いの儀式だった」と、七五三の由来を説明。また奈良の春日大社が 60 回目の遷宮であることに触れ、「伊勢神宮は正直を大切にし、八幡宮は清浄を大切に、春日大社は慈悲を大切にしていることから、両親の温かい思いやりの心で育てて頂きたい」と結びました。式典後は壮年部による万灯披露が行われ、お祝いの式典に華を添えました。

政治カフェに市会議員を迎えて　～地元の課題に熱心に語り合う～

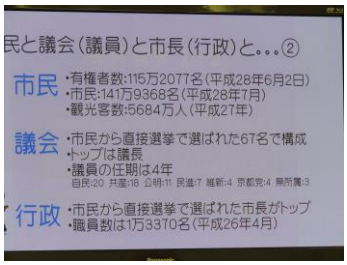
11 月 12 日、京都教会会議室において「政治カフェ」を開催。京都市議会議員を講師に招き、青年・壮年・支部長を中心に 22 名が参加しました。

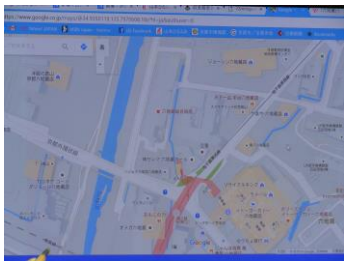
庭野開祖の政治に関する法話をまとめたＤＶＤを見たあと、議員さんの活動報告とフリートークを行いました。多くの時間を対話形式にすることで、日頃の生活と行政の関係を知ることが出来ました。

市民・議会・市長の関係、京都全体の観光産業と税収に関すること、伏見稲荷付近や南区桂川付近の道路事情のこと、京都市議会における政務活動費の実態や四条通の渋滞問題や京都駅八条口の工事のこと。

また、北陸新幹線の京都延伸やリニアモーターカーの京都への誘致問題などについて熱心な質問もあり、時には地域地図を画面に表示して、その課題について話し合うこともありました。

最後に、「今後もこのようなカフェを、ブロックごとで開催していきたい」との意見もあり、とても有意義な政治学習会となりました。





長岡京ガラシャ祭りで模擬店　～乙訓明社会員が活躍～

11 月 13 日、長岡京市において長岡京ガラシャ祭りが開催され、乙訓明るい社会づくり運動のメンバーも長岡京記念文化会館前でカレー味焼きそばを振る舞いました。当日は晴天に恵まれ、他のブースも大繁盛。パレードのスタート地点に近いこともあり 220 食は早々に売り切れ、メンバー15 名は充実感に溢れました。忙しくも楽しくお祭りを盛り上げる事が出来ました。

法華経にみる平和の教え『法華経の世界観』～庭野開祖著『平和への道』より～

前回から、法華経にある譬え（法華七喩）にある『平和の教え』について紹介しています。今回は「開発」について説かれている経説について学んでいきます。（編集部）

キリスト者の賀川豊彦師は、その著書『世勝としての宗教』の中で、法華経を心からほめたたえておられますが、その中に「最微者（最も小さい弱い存在）を愛する心持ち」という言葉があります。それは「信解品第四」にある“長者窮子（ぐうじ）の譬え”に感動しての言であったようです。最微者を愛し、最微者に手を差し伸べるのが、法華経の説く菩薩の精神にほかならないからです。

……長者窮子の譬えのあらまし……

幼いときに父の家からさまよい出て、放浪の身となった男の子がありました。50歳になるまで他国をさすらい、貧乏な日雇い暮らしを続けていましたが、ある町の豪勢な邸宅の前にさしかかると、奥の方に、国王かとも見える貴げな人が、大勢の召使たちにかしずかれておられる姿が見えました。その男はなんとなく空恐ろしくなって、そそくさと門前から立ち去りました。

その長者は、じつは、その窮子の実の親だったのです。かたときも忘れたことのないわが子の面影を、門前にたたずむ、みすぼらしい男に認めた長者は、さっそく召使に命じて連れてこさせようとしました。窮子は長い放浪生活で、心が卑屈になりきっていましたので、殺されるのではないかという恐怖感から、その場に気絶してしまいました。そのありさまを見ていた父の長者は、しばらく日が経ってから、貧しい町にいる窮子のところへ、みすぼらしい姿をした召使をやり、「汚いものを掃除する仕事だが、賃金は倍もらえるぞ……」と誘わせ、邸の中へ引き入れることに成功しました。

長者は、自分も汚い姿となって、子の警戒心を解きながら側に近づき、やさしい言葉や励ましの言葉をかけてやり、ついに仮の子ということにしてしまいました。窮子のほうは、その待遇をうれしく思うのですが、自分は貧しい身の上だという気持ちは、なかなか抜けません。それでも、与えられた仕事は黙々と忠実に果たしました。父は、だんだん高級な仕事をさせるようにし、ついに全財産を管理する支配人に取り立てました。

そうしているうちに、窮子の卑屈な心もしだいに薄れ、実力もしっかり身についてきましたので、父の長者は、国王をはじめ、町の主だった人を集めて、『この男こそ、私の実子です。私の全財産は、この子のものです』と発表しました。窮子は、そのとき初めて、この大長者がほんとうの父であったことを知り、父の無限の財産が、そのまま自分のものであることがわかって、限りない喜びにひたるのでした。

……

この譬えにこめられた宗教的な意味は、宇宙の大生命たる仏と、われわれ人間との関係は、「仏と衆生」と別々に考えられているようなものでなく、じつは一体の存在なのだということです。ここでは、われわれを生かしているその根源の存在を、父という血の通った肉親の慈悲にたとえて説かれています。そして、長者が、どうにかして窮子を自らの尊厳さにめざめさせ、その能力を開発してやろうと心を砕く、その愛情、その深い知恵が、なんともいえずありがたいのです。

「世法は、ついに仏法と相対せず」といわれているように、仏法は、そのまま世法なのです。不幸にも、地球上には、まだ窮子のような国々がたくさんあります。愛情と知恵をもって、その国々を自らの尊厳さにめざめさせ、その能力を完全に開発えたときにこそ、世界に平和が訪れるのです。

そういう責務を持つ先進諸国も、実は、まだ窮子なのです。ようやく支配人になったぐらいの段階です。ほんとうに自分の国のありのままの本質にめざめ、その本質に即した能力を開発するには、これからの課題だと思うのです。

１２～１月の主な教会行事

12月1日(木)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4日(日)	9:00～	開祖さまご命日
5日(月)	9:00～	教会発足57周年記念
8日(木)	9:00～	成道会
10日(土)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(木)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
1月1日(祝)	6:30～	元旦参り
4日(水)	9:00～	開祖さまご命日
7日(土)	9:00～	ご親教
10日(火)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(日)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
20日～27日	6:00～	寒中読誦修行

●メッセージ

アメリカ大統領がトランプ氏に決まりました。11月９日の昼間のニュースでは開票速報を伝え、出口調査の様子も報道するなど日本国内の総選挙を思わせるほどでした。インタビューを受けた男性が「白票」を投じたと言われていたのが印象的でした。クリントン、トランプ両候補とも耐えられないというのが、その理由です。日本では自分の意に即しない候補者の場合、選挙に行かない人が多いようです。自分の考えに全く同じ候補者ということはあり得るのでしょうか。近い考えの候補者に投じる、ない場合でも選挙には行き、せめて「白票」を投じる習慣を持ちたいものです。